二十　放光院の住職

筆者の知る限り、放光院の住職としてお勤め戴いたのは、飯野和尚（昭和三十年頃。貞心と同じ信州の出身）住職を退いて後は滝本さん宅横の平屋住まい。

他には、昭和三十年代に羽上田さんが住まわれていたのを覚えている。その後に七里さん。

無住になっていた放光院に、天竜寺の平田精耕老師の御斡旋により、新住職を迎えることとなる。芳名は七里祖宗（61 歳）と申され、平成 2 年におこし戴くこととなる。兼務住職・護持会（責任役員・地区役員）・大師講会長の連名でなる趣意書（大師堂信徒向け？）

趣意書

このたび、京都嵯峨、天竜寺の平田精耕老師の御斡旋に依りまして、夜久野の茶堂（放光院）に住職をお迎えすることとなりました。

御承知の通り、茶堂は古くからお大師さんの名で親しまれ創建以来、郷土の皆様方のお力で何とか今日まで堂宇の護持を致してまいりました。

しかし、一軒の檀家もなく、また財産とて皆無の一草庵でございますので定住する住職もなく、永い間ただ無住寺院のままに、細々と寺の面目だけを保ってきたというのが実状でございます。

今回、たまたま夜久野石仏めぐりの一行として茶堂におみえになった平田老師から、「このままでは、このお堂も朽ち果ててしまうだろう。私の弟子をよこそうか。」というお話があり、私共関係者にとりましては、願ってもない朗報なれば何とかこの話を実現したいと、早速に天竜寺に参上して直接ご本人にも会い、双方の事情を十分話し合った上で本人の御快諾を得ました。

今度迎えます新住職は七里祖宗という方で六十一歳、永らく鉄工関係のお仕事をしておられ、五十を過ぎてから仏門に入られて今日まで、平田老師のもとで修業されておりましたが、明春（平成二年）には道場を出て夜久野へおこし願う段取りです。

新住職を迎えるとしても、茶堂は無檀無禄の貧寺ですから、襖一枚取り換えるのも大変でございます。

何とか皆様方の御理解と御協力を賜り、せめて居室の修繕ぐらいはして温かくお迎え致したいと存じ、まことに厚かましいお願い乍ら、応分の御喜捨を賜りたく、一筆口上を記してお願い申し上げる次第でございます。

平成元年十二月吉日

合掌

茶堂（放光院）

兼務住職　東福寺　西大拙
　　円明寺　法類　慈厚
　　〃　〃　國清寺　桂山祖英

護持会会長　居相保二

責任役員　波多野弘　藤原義郎　中島清治　杉森昇

地区役員　水谷良　畠山利一　居相實（地区役員兼任）
　　三宅裕　中村明　和田稔　城本勇
　　山下富夫　藤本輝夫　夜久長一郎　山下弥一
　　垣尾正夫　太田利明　和田作太郎　足立芳美
　　中田堅三　足立忠太郎　橋本重美　古関朝行
　　西野誠　藤岡作太郎　安達佐一　進藤栄之輔
　　杉森卯太郎　居合義雄
　　塩見覚雄

大師講会長